

step.4 商品の提案

「うたう おどる あそぶ」をテーマに、利用者の個性を表現したブランド tam tam dot を立ちあげる。魅力あふれる商品をとおして、かわいい雑貨としてだけではなく、その独特なリズムによる楽しさを感じることができる。また、米袋を使うことによって耐久性や素朴なあたたかさがアピールでき、他の紙製品との差別化をはかることができる。



多夢多夢舎中山工房 スタッフ 坂部 認さん

Staff comment

「このてぬぐいの絵は僕が描きました」「似顔絵もできますよ！」街中のギャラリーで展示とライブペイントをしたとき、仲間たち(多夢多夢舎では、メンバーのことをこう呼んでいます)は笑顔でお客さんに応えました。仲間たちの才能が輝き、ひとと関わる瞬間。一番嬉しいときです。

仲間たちと、職員と一緒に楽しく生きていきたい。その想いをずっと大切にしてきた10年間。これからは仲間たちに、世の中に出て、その魅力を存分にいかしてほしいと思っていたとき、エイブルアート・カンパニーの活動を知りました。新ブランド tam tam dot シリーズの展開にはじまって、展示会「tam tam 10」、仙台市の助成プロジェクト「tam tam dot × 武田染工場」、「とっておきの音楽祭」のイラスト。仲間たちが外に出て輝くときは、いつもエイブルアート・カンパニーのサポートがありました。

アートは、一つの可能性、手段です。仲間たちと、職員と、エイブルアート・カンパニーと。楽しく世の中に飛び出していく可能性を、これからも一緒に探っていきたいと思います。

施設 DATA

特定非営利活動法人 多夢多夢舎中山工房
住所：宮城県仙台市青葉区中山 2-18-5 電話：022-277-0081
URL：http://tamutamu.jp

多夢多夢舎中山工房 × GoodJob! 東北プロジェクト

step.1 課題を探る

困っていることは何ですか？

震災の影響で支援の意味を含んだ発注や仕事が増えているが、内職的な仕事では利用者の仕事の幅が限られているのでスタッフへの負担が大きい。もっと利用者が関わって、売り上げにつながる商品づくりをしたい。

また、利用者の魅力を伸ばすことに力を入れている施設として、日々の表現活動で生まれた利用者のアートを使った商品をつくれないうか。

アートを使った商品をつくりたい

step.2 目的を整理

課題について整理してみましょう。

ただ絵を商品にのせるのではなく、利用者がいきいきと働ける(表現できる)仕事の方法を探る。

黙々と作業をしている内職の時間と、いきいきと弾ける表現活動(ダンス)の時間。このオンとオフを一緒にできないだろうか。

利用者の個性をいかした商品づくり

step.3 実践する

課題を解決するために何をしたらいいか考えましょう。

今までつくってきた米袋のクラフトグッズにアートを加え、オリジナリティを出す。また、絵を描くことが難しい利用者でも作業に参加できるよう、そしてダンスや歌で培われたリズム感がいかされるよう、モチーフをドット(反復のリズム)とし、だれもがデザインに参加できるようにする。tam tam dot というブランドをつくりコンセプトを明確にし、利用者の魅力を伝えることで、多夢多夢舎のファンを増やしていく。

魅力を伝えるブランドづくり